



南極ものがたり

No.5



◆ いざ、南極へ

12月6日(日)。いよいよフリーマントルを出港し、南極へ向かいます。

10時(日本時間11時)に出港しました。40名位でしょうか。港には、日の丸を高く掲げて振る見送りの方がいらっしゃいます。在留の日本人や日本に関係深い方々なのでしょう。昨日、剣を交えた領事館の白野さんも駆けつけてくれました。隊員は、甲板上から帽子を振って見送りに応えています。どの隊員も晴れやかな表情をしています。同時に任務遂行の強い決意を再確認したようです。

ところが、出港早々、「しらせ」は前後左右に大きく揺れはじめます。その報告は、また後日・・・。

「しらせ」フリーマントル出港を記念して一句
「白き大地目指すはしらせ蜜柑色」



2015.12.6.

◆ JARE57 隊員紹介

門倉 昭 (57) 隊長(兼夏隊長) 出身地: 神奈川県

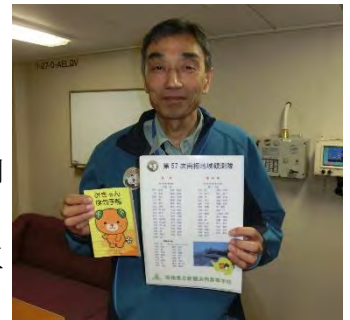
国立極地研究所 研究教育系宙空圏研究グループ長

第30・44・50次越冬隊に参加。今回初めての夏隊。

専門はオーロラ研究。研究歴は30年以上。現在は、昭和基地～アイスランド地磁気共役点におけるオーロラサブストームの研究や広域ネットワークオーロラ観測網を用いた南極全域の活動の解明を目指している。2016年には赤道上空の楕円軌道上に新しい人工衛星が打ち上がり、オーロラ生成の太陽風・磁気圏・電離圏相互作用メカニズムの解明を目指した研究を深化させる予定。

小学生の頃は、小説を読むのが好きな少年であった。理系に進んだのは、Blue Backsの愛読者だった兄の影響が大きかったとのこと。皆さんには、「自分が面白いと思うことをやってください。ただし、本質は忘れずに」との言葉をいただきました。

隊員が楽しみながら、任務が遂行できるように隊の運営を考えたいとおっしゃられていました。



◆ 「しらせ」オリエンテーション

昼食後、各種講習会が始まりました。

まずは、しらせ幹部の方との顔合わせ、観測隊員の自己紹介がありました。その後、6グループに分かれ、自衛隊の方の案内の元、「艦内旅行」が実施されました。艦橋・気象室・士官室・保養室・格納庫等、しらせの艦内主要各所を見学しました。艦内の様子は、後日少しずつ紹介します。続いて、救命胴衣装着法講習会です。各々、実際に救命胴衣を着用しました。右写真はイマーション・スーツという浮力が働くタイプで断熱型の胴衣です。これらの救命胴衣は各寝室に装備されています。最後に、不測事態発生時の対処要領の説明を受けました。不測事態などないように・・・。



◆ 食彩 ANTARCTICA

今日の夕食は、「伊勢えびの造り」。しかも一人一尾。伊勢えび漁が12月に解禁となり、現地で調達したものです。朝まで生きていたそうです。しらせ出港を記念してのうれしい、お・も・て・な・し、です。

しらせの食事は、調理担当自衛官の方が作ってくれますが、非常においしい頂いています。ごちそうさまでした。



2015.12.6.